

大学評価ワークショップの試行実施

公立大学政策・評価研究センターの取組み

発表者：中田 晃（一般社団法人 公立大学協会）

公立大学の質保証の実質化のために、公立大学政策・評価研究センター（浅田尚紀センター長）は、平成25年度、長崎県立大学と名城大学の2大学において、「外部評価」としての大学評価ワークショップを試行実施した。

大学評価ワークショップ実施の背景

大学設置基準の大綱化を背景に地方自治体は新たな理念を持った大学を次々に設置。法人化の制度ができると、様々な工夫を凝らしながら個別にガバナンス改革が進められた。今後この先30年先の地域社会の在り方を見通した質保証の在り方が求められる。

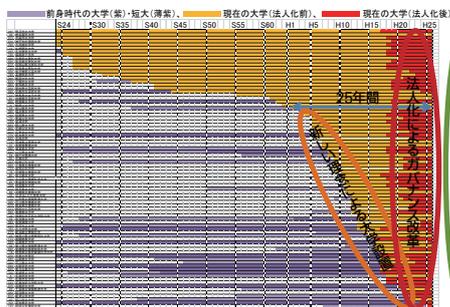


図1 公立大学沿革グラフが示す改革の経緯

公立大学の沿革を3つの時期に色分けし、開学・改組時期の古い順に並べた。4分の3の大学は、平成期に設置され、8割の大学は直近の10年間に法人化された。この四半世紀に「新設・再編」と「法人化」と2度改革を経験してきたこととなる。

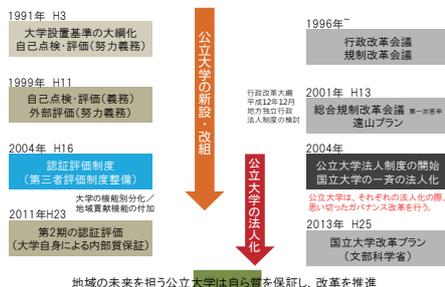


図2 制度改革と公立大学改革の段階

大学設置基準の大綱化を背景に、新たな理念での大学づくりが可能になり、法人制度のもと法人化を進めて来た。今後は、制度改革から「自ら機能を充実させる」へ改革の足場が変化。地域の未来を担う公立大学は自らの質を保証し、改革を推進。

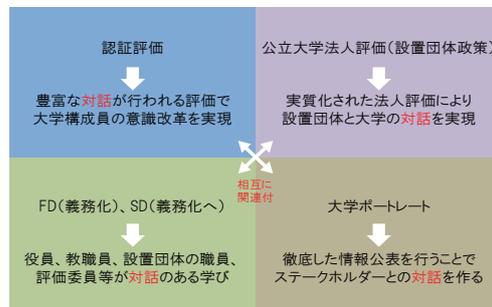


図3 制度の実質化と相互の関連付けの必要性

中小規模大学が多く、全体としてのスケールメリットも効かない公立大学は、様々な質保証制度（内部質保証、認証評価、法人評価、FD・SD・PD）相互を関連付けながら、実質化していかなければならない。キーワードは「対話」。

大学評価ワークショップの方法

質保証の中に、当事者間の様々な対話を作り出す必要がある。また、評価を通して、大学の歴史や理念が構成員の中に、生き生きと甦ってこなければならない。公立大学法人評価のあり方も見据えながら、外部評価としての大学評価ワークショップを試行実施した。

大学評価ワークショップ

- 1 趣旨
 - 公立大学政策・評価研究センターは、公立大学協会会員の要請に応じ、対話を中心とした双方向的な評価「大学評価ワークショップ」(以下、ワークショップ)を実施する。
 - 評価を受ける側の大学は、大学のさらなる機能の充実や、内部質保証の取組みのための様々な知見を得るとともに、ワークショップの成果物として提供される「大学ピアレビュー(報告書)」と外部評価結果として活用する。
 - 評価チームへの参加者は、評価する側の立場や視点を共有することを通じて、大学評価や内部質保証を担う人材としての経験を積む。
- 2 評価・支援項目の例(大学の要請を踏まえる)
 - (1)大学の特色ある取組みに対する評価 (長所/長所とさらなる向上の期待)
 - (2)各種評価結果を受けて実施した改善活動に関する評価 (課題発見と改善の検証)
 - (3)内部質保証システムの機能に関する評価 (内部質保証に関する方法論のディスカッション)
 - (4)大学評価ワークショップ自体の評価 (自由な対話を通じて評価機軸の整理)
- 3 「大学ピアレビュー」の報告事項の例
 - (1)大学が長所として掲げる特色ある取組みの優位点
 - (2)各種評価結果を受けて大学が行う改善活動の進捗状況
 - (3)大学の内部質保証システムの有効性

図4 大学評価ワークショップの概要

ワークショップは、制度上の評価（認証評価・法人評価）の実質化を目指すと同時に、評価業務を担当する教職員の意識改革及び負担軽減に配慮する。基本的な資料は、既存の自己点検評価書や法人評価結果を評価者側が整理して作成する。

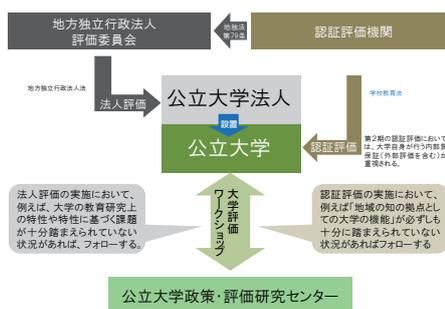


図5 法人評価、認証評価の取組みを支援

大学評価ワークショップは、第2期の認証評価で推奨されている「外部評価」として実施し、公立大学の内部質保証を支援する。同時に、「認証評価結果を踏まえる」法人評価を支援する形で機能するように試行錯誤を行っている。

項目	認証評価	大学評価ワークショップ
根拠法令	学校教育法	なし
評価の種類	第三者評価	外部評価
評価者	評価機関が指定した評価者	大学とセンターが合意した評価者
評価項目	認証評価機関の基準・観点で規定(網羅的)	大学が評価を要請する事項及びセンターが必要と判断した事項(集中的)
実施時期	7年以内(必須)	随時(任意)
手法	書面調査及び訪問調査による水準評価(客観的)	それぞれの経験に基づく議論を主体とした評価(主観的)
評価の還元	認証評価結果(報告書)	議論の共有、大学ピアレビュー
実施形態	非公開型(大学執行部、部局長)	公開型(教職員、学生、学外者)
メタ評価	事後のアンケート調査への回答	ワークショップのプログラムに振り返りの時間を組み込む
準備負荷	高い(決められた形式で自己点検・評価書を作成)	低い(公開資料の活用)
費用	高額	低額(試行期間は実施手数料なし)

図6 認証評価制度と大学評価ワークショップの比較

大学評価ワークショップは、根拠法令等のない外部評価の取組みである。大学が評価を要請した事項と、公立大学政策・評価研究センター側で必要と判断した主として内部質保証の課題について、多くの学内関係者の参加のもと実施される。

大学評価ワークショップの成果

写真は、長崎県立大学におけるWS (H25.10.31)の様子。およそ100キロ離れた2キャンパスを遠隔会議システムで接続し、教職員・学生・評価チーム、合計55名の参加を得て実施。3つの学生団体が、学科の学びを地域で展開する活動を紹介した。

(受審大学にとっての成果) → 外部評価を越えた様々な成果がある

- 教育改革へのヒントを得る
- 多くの教職員の参加による、意識改革の機会となる (FD・SD)
- 学生参加により活動の実際を知ると同時に、学生の主体的な学びを励ます。

(センターとしての成果) → 貴重な情報が集約・蓄積

- 会員校の優れた取り組みについて深く理解
- 評価への対応に関する情報収集

質保証の取組みとFD・SD活動の有機的結びつきの可能性が見えた。

